

令和3年度第2回日南町社会教育委員会にて(その1)

令和3年9月24日、総合文化センター多目的ホールにおいて、令和3年度第2回社会教育委員会が開催されました。

会議に先立ち、先日行われた「日南学」講演会のビデオを視聴した後、会議が行われました。まず事務局より本年度上半期の社会教育事業の状況と下半期の事業説明を行い、委員からは、次の意見が出されました。

◆日野郡ふるさと教育の特別授業で、Uターンをして郡内で起業しておられる人の話を聞くような企画を立ててほしい。

その後、『社会教育として「日南学」にどうかかわっていくか』というテーマで協議が行われました。出されたご意見を紹介いたします。

◆遊びを通じて学ぶことが大事である。大人も学ぶからである。大人が外で遊ぶ姿を見なくなった。わが子と関わるのは、生まれてからせいぜい中学、高校までの間だ。そう考えると子どもと関わる期間は短い。親が「遊びの達人」という姿をみせること。もっと子どもと遊んでもらいたい。

◆わが子子ども時代と、今の子どもとは時代が変わっている。外で遊ばなくなっている。

◆子どもとどうコンタクトをとるか。学校から離れると、学校の様子がわからない。教育委員会や学校、振興センター等で企画してもらえば、大人も関わりやすい。今の子どもは、外で遊ぶ術を知らないだけで、イベントなどでは楽しそうに遊んでいる。機会をつくる必要がある。

◆「日南学」をやらなければならないのはわかる。自分から「こんなことがやりたい」というのは言いにくい。企画があれば協力しやすい。やる気はあるが、何をしたらいいのかわからない人も多いのではないかと。

◆今の子どもは「なんのために祝日なのか」理解していないのではないかと。何のための休みなのか、学校や家庭で教えてその祝日に関わることをする。例えば、彼岸の墓参りに家族と行き、墓へ行く道中に虫や花などをみつける。そういったことが必要。

◆作野先生の「下り坂にどつブレーキをかけていくかが重要」ということに共感した。

◆先生方も「日南学」をたくさん勉強して、熱意をもってやってほしい。

一部のご意見ですが、社会環境の変化で子どもたちの様子等が共通理解された会議となりました。その他のご意見については、次号で掲載予定です。

地域コーディネーターだより

学校という集団生活の場において衝突はつきものです。自分で悪いことをしたと感じたら認め謝る、人の良いところを見つけたら褒める、それができる場所が学校ではないでしょうか。「ごめんなさい」「ありがとう」という言葉が素直に言える大人に育ってくれればと思っています。

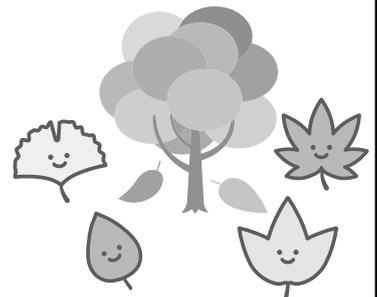
これからは、音楽発表会、校外学習など、まだまだ沢山の思い出をつくることのできる時期です。仲間を大切に、しっかり目標をもって取り組んでほしいものです。

令和4年1月にスタートします「コミュニティ・スクール」。今一度どんなものか簡単に説明します。学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域が力を合わせ、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていこうという制度です。新しい日南町教育の在り方を本格的に議論し、それがしっかり反映できるよう支援していく「出発点」となるべきものです。日南町の子ども達がたくましく成長してほしいと願っています。

クイズ 紅葉編

これから秋が深まり山々は紅葉してきます。赤色、黄色、褐色など色とりどりとなり紅葉見学を楽しみにしてられる方が多くおられるのではないのでしょうか。さて一般的に紅葉すると言われる樹木とは次のうちどれでしょうか。

- ① 常緑樹
- ② 落葉樹
- ③ 街路樹



※前号の答え ① 正しく箸をもちましょう!

連絡先 教育委員会 82-1118 コーディネーター荒金 敏文 携帯 080-5232-7712

